

渉外レポート INTERNATIONAL AFFAIRS REPORT

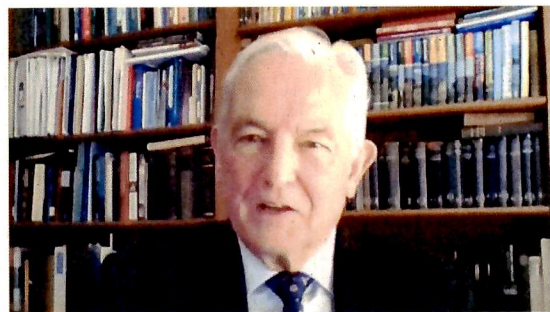
Vol.22

英国保護裁判所元上級判事オンライン講演会

令和4年3月1日、デンゼル・ラッシュ氏を講師に迎え、オンライン講演会を開催しました。ラッシュ氏は、後見事件を専門に扱う英国保護裁判所の上級判事として、長年にわたり後見分野の審理を担当された方です。

講演は「後見制度における本人の尊重」をテーマに行われ、ラッシュ氏は、裁判例や豊かな実務経験をもとに、英国における実情を時折ユーモアを交えながらお話し下さいました。講演後は、ロンドン大学バークベック校刑事・司法政策研究所（ICPR）上級研究員のカミリア・コン氏、裁判官、家庭裁判所調査官、裁判所書記官も加わり、質疑応答が行われました。英国における意思決定能力の有無に関する判断枠組み、本人のニーズの把握方法などのトピックについて活発な意見交換が行われました。

この講演会は、オンラインで、全国の100人以上の裁判官及び裁判所職員が聴講しました。「比較法的観点から、非常に多くの示唆をいただいた」「研究者の視点からのコメントを聞いたのもよかった」などの多くの好評をいただきました。



英国（イングランド・ウェールズ）記録長官オンライン講演会

令和4年3月18日、イングランド・ウェールズ記録長官であるジェフェリー・ヴォス卿を講師に迎え、オンライン講演会を行いました。この講演会は、日本の裁判所がデジタル化の検討を進める中で、英国の取組を参考にするために開催されたものです。

冒頭では、大谷直人最高裁長官が開会挨拶を行い、「日本のデジタル化の検討を進める上で、先んじてデジタル化を推進してきた他国の裁判所の取組を参考にすることはとても有効です。」と述べました。



講演会では、ジェフェリー・ヴォス記録長官が、イングランド・ウェールズ司法のデジタル化の軌跡及び今後の展望をテーマとして講演し、オンライン申立てや申立前ポータル、デジタル化における課題を紹介しました。続く質疑応答では、デジタル化後の裁判所の役割やAI技術の活用についても話題が及びました。

本講演会は、全国の裁判官や裁判所職員200名近くがオンラインで聴講し、英国（イングランド・ウェールズ）司法のIT化の取組についての理解を深めました。



お知らせ オンラインイベントが実施されます

令和4年9月16日（金） 午後6時～午後7時30分

外国法曹によるオンライン講演会 （追ってJNET ポータルにて募集要項を掲載予定）

テーマ 「ドイツ民事訴訟のデジタル化」

講師：ヴェルナー・リヒター氏 （独デュッセルドルフ高等地方裁判所所長）





マンスフィールド研修生インタビュー

令和4年2月21日から3月25日にかけて、第25期マンスフィールド研修員の[]さんが最高裁及び東京地裁（調停部・破産部）において研修を受けました。研修初日に意気込みなどをお聞きしました。

（マンスフィールド研修は、駐日米国大使も務めたマイク・マンスフィールドの名を冠した、日米両国間の実務的な政府間研修プログラムです。そのため、[]さんは、裁判所だけでなく各政府機関でも研修を受けています。）



笑顔でインタビューに答える []さん

Q：これまで来日されたことはありますか。日本についてのイメージは。

A：来日は、今回が初めてです。私も私の家族も、日本のゲームが大好きで、世代を超えて同じ遊びを経験しています。また、日本の食事は素晴らしいと感じています。私は、特にエビが好きで、来日後は、エビ餃子やエビの天ぷらを楽しみました。

Q：日本滞在中、アメリカと違うと感じたことは何かありますか。

A：新型コロナウイルス感染症をめぐる状況に関して、私がいたアメリカのワシントンD.C.では、テレワークが広く一般的でしたが、日本では、皆、マスクと体温測定、手の消毒をして、出勤し、レストランにも行くことが、大きな違いでした。

Q：裁判所での研修では、どのような経験をしてみたいですか。

A：私は、石油やガス田の倒産事件を多く扱っている弁護士ですので、倒産事件の手続を見学したいと思います。また、一般的な審理の流れについても知りたいです。また、日本には、刑事事件において、裁判官と裁判員が一緒に審理を行う裁判員制度があると学びましたが、アメリカでの陪審制度とは異なるので、どのように裁判官と裁判員が相互作用するのだろうと、好奇心がわきました。

[]さんは、令和4年3月に研修を終えられ、「東京地裁では、両当事者の合意によって、裁判と調停を同じ裁判官が担当するという日本の裁判所制度を知り、大変興味深く感じました。」「合議を興味深く拝見しました。合議によって、裁判官たちは自分の法的専門知識や経験を共有し、互いに学び合い、裁判体のチームワークを促進し、判決に継続性を持たせることができると感じました。」「裁判員裁判の見学の予定を組んでくださり感謝します。とても興味深かったです。」と、お話しされました。

グランドと海外・・・



世界の広さ

東京地方裁判所判事補 河本 薫
令和3年度判事補海外留学研究員
米国アリゾナ州フェニックス派遣



グランドキャニオン。州都フェニックスから350kmの旅。10月早朝の小さな展望台は混み合っていたが、それでもコロナ禍にあって例年より観光客は少ないようだ。「お先にどうぞ」と譲り合いながら切り立った崖の際まで進むと、眼下には悠久の歴史を刻む峡谷が遥か視界の果てまで広がり、地平の彼方から昇る朝陽を浴びて大気と共に刻一刻と色彩を変えてゆく。

世界は広い。海外旅行の経験もなかった私は、初めて目の当たりにするその威容に息を呑むばかりであった。

翌週、友人の紹介で、派遣先大学の日系人講師と食事に行くことに。フェニックスではあまり日本の方を見かけることはない。話が合うのでは、という友人の計らいに感謝しつつ約束の場所へ向かうと、相手はつい一週間前に展望台で順番を譲り合い、同じ朝陽を眺めた観光客であった。聞けばこちらに移住して数年になるが、あれが初の訪問とのこと。

世界は広い。そして、案外狭い。高く澄み渡る秋空の下、思わぬ巡り合わせに笑い合い、大きなピザに舌鼓を打った。

次回の渉外レポートもお楽しみに！